

三栄工業株式会社新座工場

〒352-0004 埼玉県新座市大和田3-1-14 TEL 048-481-7106

「町工場でも身体障害者雇用を…」

事業の概要

■沿革 昭和23年、三栄ガasket工業(株)として設立。平成2年、3ヶ所に分散していた工場を新座工場に集約。
平成10年、敷地・工場内全体を車椅子のまま移動できるバリアフリー職場環境を作り、平成11年、下肢障害者2名を採用、更に増員に向け職場環境を整備している。

■従業員数 25名 うち障害者2名(平成11年12月31日現在)

視覚障害者	聴覚障害者	肢体不自由者	内部障害者	知的障害者	精神障害者	その他
—	—	2 (2)	—	—	—	—

()内は重度障害者

■事業内容 自動車部品製造業

改善の概要

改善の背景

社長が「特に車椅子使用の下肢障害者が目を輝かせて働けるような職場に…」という夢を抱いてきた。創業50周年を迎えた平成10年、長年の大きな目標であった身体障害者(特に車椅子使用の下肢障害者)を雇用するために、バリアフリー職場への改善に取り組んだ。

改善の内容

●バリアフリー職場への改善の取り組み。

1 バリアの改善

「何がバリアなのかを体験してみよう！」

社長を含め、役員以下、各職場の責任者がヘルメット、プロテクターを着用し、ローラースケートで工場内を歩き回り、普段気付かないバリアを体験し、「ローラースケートをはいて支障なく仕事ができるようなバリアの改善」をめざした。

機械油で滑りやすかった床面も、改善が進むにつれて垂れ落ちる油もなくなり、床を這っていた配線類もかさ上げされた。



ローラースケートでバリアの改善

「車椅子の目線と気持ちでバリアを取り除こう！」

各職場の責任者が車椅子を体験し、車椅子で作業するための安全性、動作範囲、モノの置く位置などを検討した。

車椅子に座った状態で使用できる緊急停止の赤ボタン、稼働復帰の緑ボタンのスイッチボックスを新設した。



バリアフリー改善検討用車椅子

2 事務所内の改善

- ・事務所の机を車椅子で使用できるタイプに変更。
- ・それぞれの机を事務作業、パソコン操作、電話応対等が車椅子の定位置のまま効率よくできるような配列に改善。
- ・測定機器類についても、支障なく使用できるように高さ、配置、作業方法等を改善。



車椅子で使用できるタイプに机を変更し、定位置のまま事務機器が使えるように改善。



製品の品質を測定する投影機の図面の高さを下肢障害者の目線の位置まで下げ、測定誤差のないように改善。投影機の右後方には各種測定機器類が、車椅子のまま取りだしやすく保管されている。

3 作業の改善

- 2台のプレス機械、2台の多関節ロボット、それぞれの上下2連のコンベアーを組み合わせることによって、車椅子の下肢障害者が1人で2種類の製品を加工をする重要なオペレーターとして活躍。
- 作業場内の通路、機械の裏側まで車椅子で自由に動き回れるように改善。
- すべての製造機器に備えている表示板（作業標準書、製造登録、品質管理記録書類等）の高さ、場所を、車椅子でも安全に記入、表示しやすい位置に改善。



右側、左側の作業動作で2種類の製品を加工できる。



機械の裏側も車椅子のまま動き回れる。

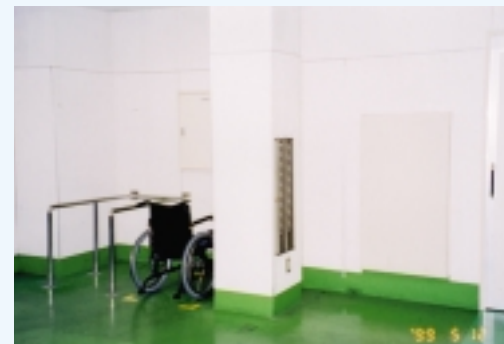


表示板の設置位置や表示方法の改善

4 その他設備の改善

●プッシュアップパイプの設置

下肢部の血行促進のための「プッシュアップ運動」ができるプッシュアップパイプを、更衣室を出て作業場に向かう途中に設置。



プッシュアップパイプ

●エレベーターの改善

乗降の際、各フロアとエレベーターのステップのすき間に車椅子の前輪が落ち込まないように、各階ともエレベーターの扉側の床を若干（約10mm）延ばした。



エレベーターの改善

●階段の改善

製造作業場内2階の製造本部事務所へは狭い階段しかなかったが、車椅子用階段昇降機を設置した。



(改善前)



(改善後) 車椅子用階段昇降機の設定

5 下肢障害者を初めて雇用

バリアフリー職場環境改善工事がほぼ完了した平成10年秋、国立職業リハビリテーションセンターの職業訓練生である下肢障害者2名の採用を決定。実習生として、当社で作業および職場環境への適応を図り、実習生の意見も取り入れて、更に充実した作業環境、職場環境等を整備することができた。

6 仕事の効率を考えた電動式車椅子の導入

個別の体格、希望に合わせた当社職員専用の電動式車椅子を各自に用意。仕事の道具や書類を抱えて、工場内を素早く移動でき、仕事の効率が上がった。

車椅子メーカーに製作依頼した際の当社の特注内容は・・・

- ①スポーツタイプフレームを使用し、出来るだけ軽量にすること。
- ②脱着式バッテリー（座席の背もたれの裏）は、脱着が確実かつ容易であること。
- ③フレーム右前部の操作スティックは、邪魔にならないよう、位置を容易に低く移動できること。
- ④車椅子に装備の作業テーブルは、頑丈かつ軽量で、脱着が容易であること。



電動式車椅子

1 自信を積み重ねていく障害者

- ・毎日、快活に仕事に励んでおり、健常者の速歩きのスピードで工場内を動き回っている。
- ・仕事を次々に覚えることで、自分自身への大きな自信が積み重ねられている。

2 障害のない人も大きな活躍ができる改善

- ・さまざまな改善は、障害のない人にとっても“より安全で、より快適な職場環境の確保”につながっており、ベテラン職員はさらに大きな活躍ができるようになった。

3 「一生涯活躍できる町工場」をめざして

中小企業にとって厳しい状況が続く中で、バリアフリー職場への改善は並大抵のことではなかったが、「大きな夢」を実現できた。今後はバリアフリー職場環境の充実により、高齢になっても作業能力は低下させずに、快適に働ける職場環境をめざしたい。

